

地域交流センター拠点とした 全世代・全員活躍のまちづくり

愛知県江南市 企画部 企画課



SDGs
未来都市 KONAN



市の紹介

[人口・世帯数] 98,255人、43,223世帯
(2024年9月末現在)

[面積] 30.20km² (東西6.125km、南北8.760km)

[アクセス] 名鉄名古屋駅から電車で約20分

[周辺自治体] 一宮市、岩倉市、小牧市、丹羽郡大口町、
丹羽郡扶桑町、岐阜県各務原市



所管業務（企画課、2024～）

政策・協働グループ

- ・ 総合計画、行政評価
- ・ 市制70周年記念事業
- ・ 特命事項推進、SDGs推進
- ・ **市民協働・市民活動推進**
- ・ 区・町内会
- ・ 市民参加
- ・ ふるさと寄附金
- ・ 地方創生
- ・ 地域活性化、地域連携

D X 推進グループ

旧 秘書政策課企画グループ
(～2023)

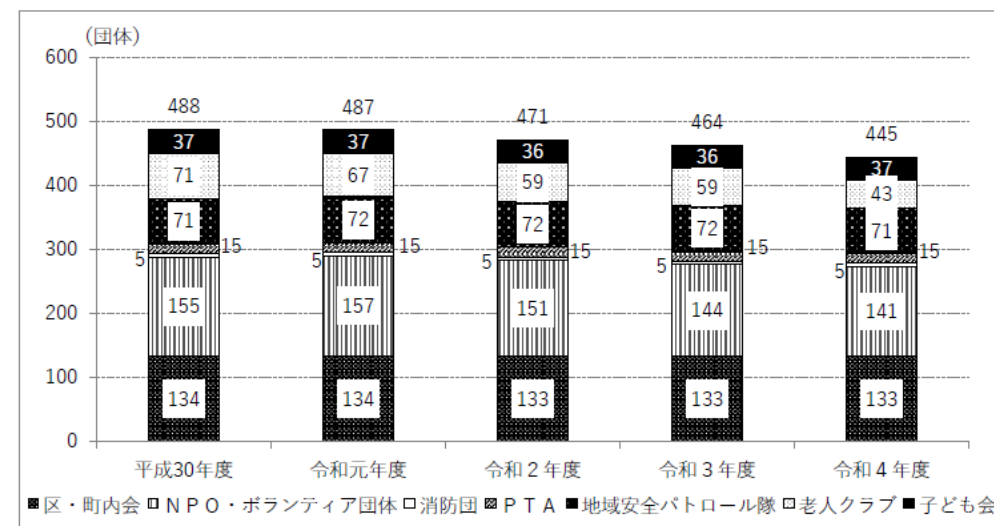
旧 地方創生推進課地域協働グループ
(～2023)

現状と課題

○ 急激な社会環境の変化や少子高齢化の進行、人口減少社会への転換、生活様式の多様化などを背景として、地域コミュニティの担い手の不足や地域とのつながりの希薄化、社会からの孤立化など地域課題はますます多様化・複雑化している。



参考 地域コミュニティ団体数
(第6次江南市総合計画より)



2023 (R5) .4.1 OPEN !

toko⁺toko=labo (布袋駅東複合公共施設)



施設概要

[基本コンセプト]

『江南市の南玄関口にふさわしい賑わいと、
安心して住み続けられるまちの交流施設』

駅前的好立地を活かし、市民の利便性、市の魅力向上を期待できる、賑わいと交流を創出する「官民複合施設」として整備。

[機能]

(公共施設棟) 地域交流センター、
図書館、保健センター、子育て支援
センターなど

⇒ 子育て機能のワンストップ化

(民間施設棟) 食品スーパー、生活
雑貨販売、民間保育所など



江南市地域交流センター(複合公共施設1階)

■センター内の施設、設備



開館時間	9:00 ~ 21:30
施設予約 受付時間	9:15 ~ 17:00 ※電話による仮予約は9:45から
休館日	毎週木曜日(祝日の場合は翌平日) 年末年始(12月29日~1月4日)

区分	収容人数	利用料金 市2	
		2時間	2時間30分
会議室 1	27名	320円	400円
会議室 2	27名	320円	400円
会議室 3	18名	210円	260円

▲施設入口のデジタルサイネージで情報発信

▲会議室は従前施設の1室から3室に拡大(3室を一体的に利用することも可)。一般・営利団体も利用可能。



区分	料金
印刷機	1製版につき 50円 (用紙は持参してください)
コピー機	白黒(A3判以下).....1枚につき 10円
	カラー(A3判以下)....1枚につき 50円
大型コピー機	1枚につき 200円
裁断機	無料
紙折り機	
丁合機	



◀オープン
スペース
(予約不要、無料)



▲センターHP

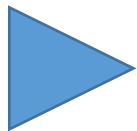
◀従前施設から設備を充実させた作業コーナー(登録団体が利用可)

～過去のふりかえり～ 市民協働推進の取り組み①

◎ 江南市市民協働研究会による提言（H20.3）

市民協働研究会 H18.6～H20.3

- 協働のあり方を研究し一定のルールを作成
- 公募市民10人+公募職員11人
- 会議42回



江南市市民協働研究会提言書 (H20.3)

- 1 市民へのアピール
- 2 市民協働のまちづくり推進指針
- 3 基本条例の制定に向けて
- 4 市民・協働ステーションのあり方について



～過去のふりかえり～ 市民協働推進の取り組み②

1 市民へのアピール

2 市民協働のまちづくり推進指針

3 基本条例の制定に向けて

4 市民・協働ステーションのあり方について

① 市民へのアピール

市民協働のまちづくりガイドブック 発行（H20.6）

- ・ 提言書に基づいた内容のガイドブックを作成し、市民向けに作成

団体との懇談会（H20.7～ H21.1）

- ・ まちづくりガイドブックの内容説明
- ・ 29団体と実施



▲市民協働のまちづくり
ガイドブック

～過去のふりかえり～ 市民協働推進の取り組み③

- 1 市民へのアピール
- 2 市民協働のまちづくり推進指針
- 3 基本条例の制定に向けて
- 4 市民・協働ステーションのあり方について

② 「市民協働のまちづくり推進指針」に基づく取組

市民・協働ステーション設置（H20.6）

- ・ 市民協働と市民活動によるまちづくりの拠点として開設

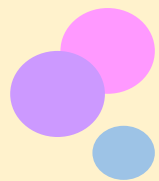
市民協働・市民活動推進協議会（H20.6～）※

- ・ 市民活動や地域の活動をつなぎ広げていく施策の協議
- ・ 学識経験者、公募市民、市民活動団体代表者など10人

※ R5.3～「江南市協働のまちづくり推進協議会」として
会議体を再編成



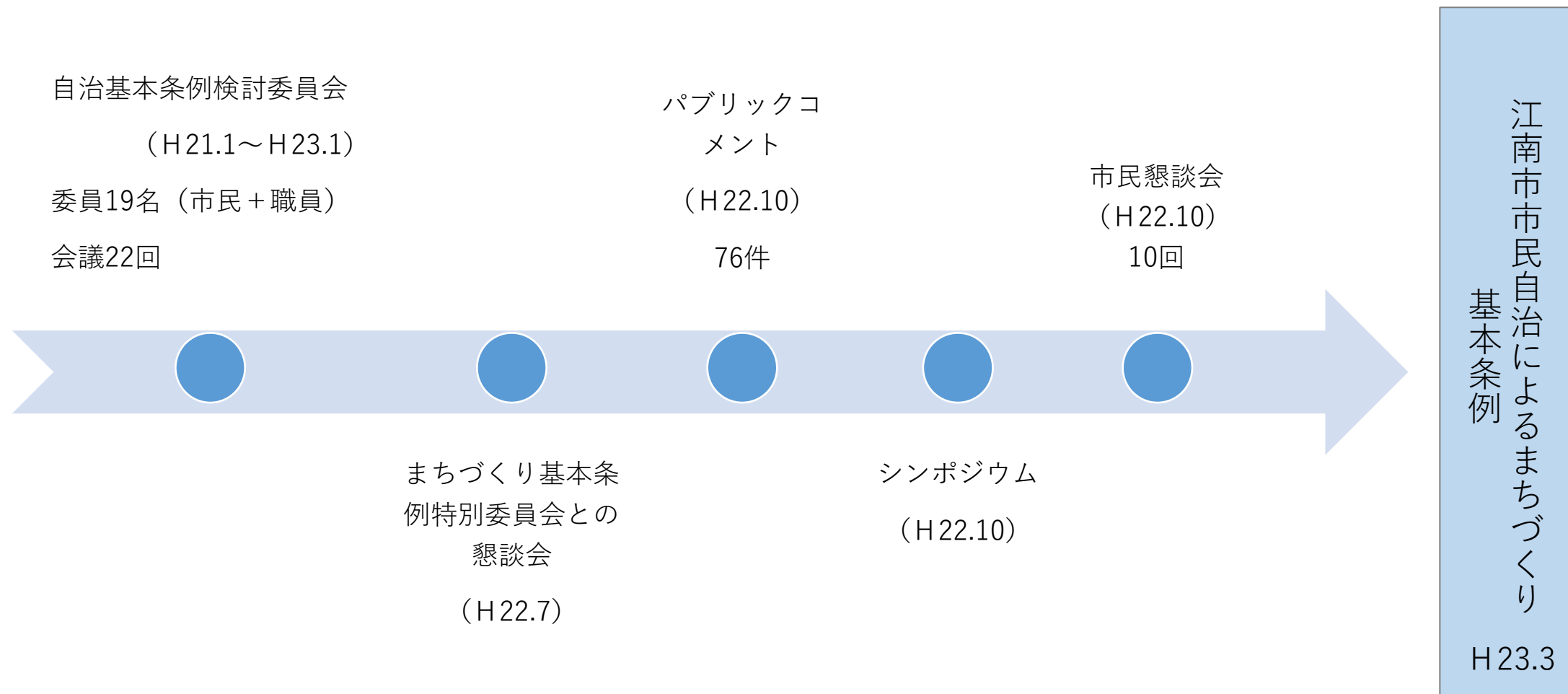
▲市民・協働ステーション
（～R5.3、西分庁舎内）

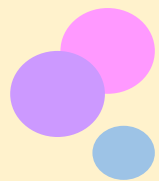


～過去のふりかえり～ 市民協働推進の取り組み④

1	市民へのアピール
2	市民協働のまちづくり推進指針
3	基本条例の制定に向けて
4	市民・協働ステーションのあり方について

③ (1) 「まちづくり基本条例」の制定

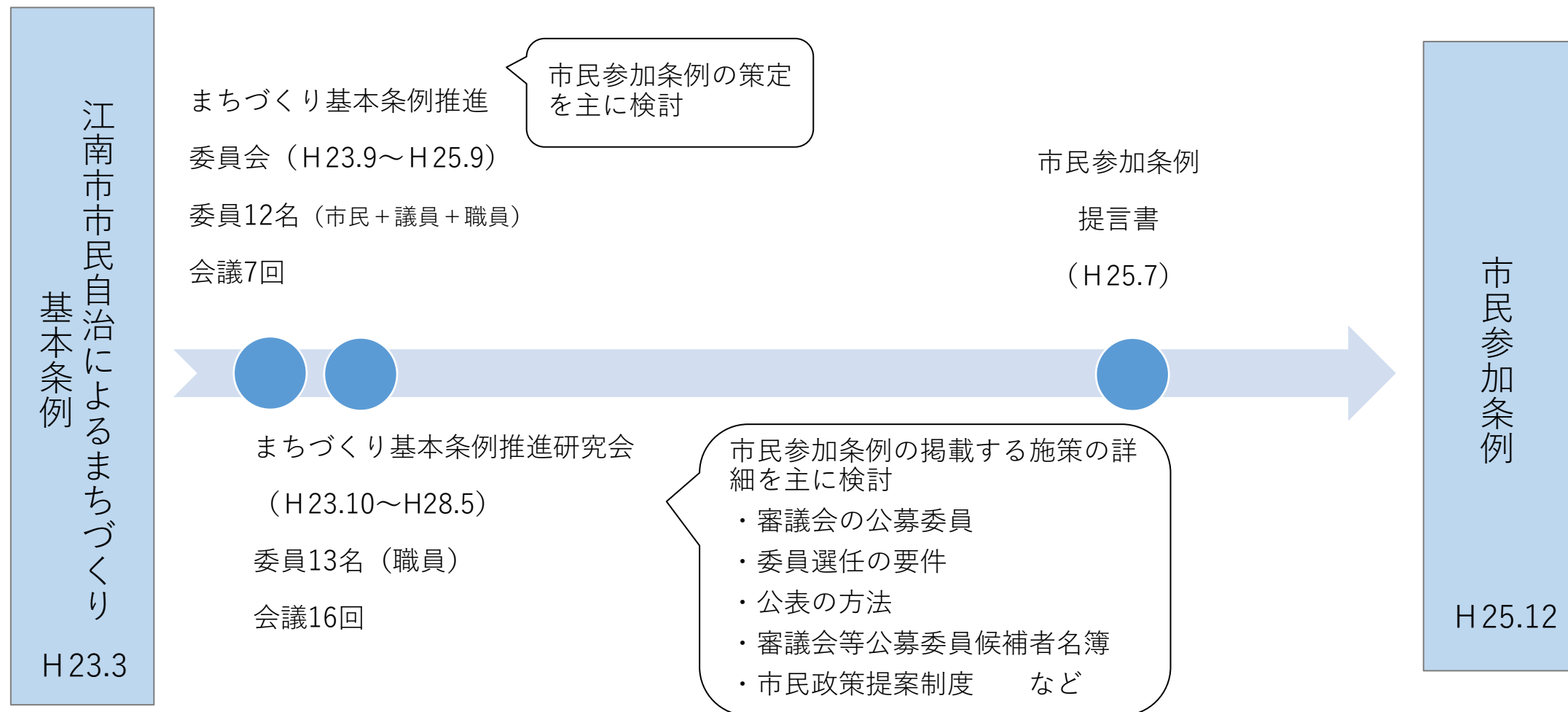




～過去のふりかえり～ 市民協働推進の取り組み⑤

- 1 市民へのアピール
- 2 市民協働のまちづくり推進指針
- 3 基本条例の制定に向けて
- 4 市民・協働ステーションのあり方について

③ (2) 「市民参加条例」の制定（まちづくり基本条例推進のため）



～過去のふりかえり～ 市民協働推進の取り組み⑥

- 1 市民へのアピール
- 2 市民協働のまちづくり推進指針
- 3 基本条例の制定に向けて
- 4 市民・協働ステーションのあり方について

④ (1) 江南市地域交流センター整備 前 の拠点 (市民・協働ステーション)



施設概要

利用者：利用登録制（自治会、市民活動団体等）

内容：

作業コーナー（印刷機・コピー機・裁断機・紙折り機）

多目的活動室（定員18名）

印刷機

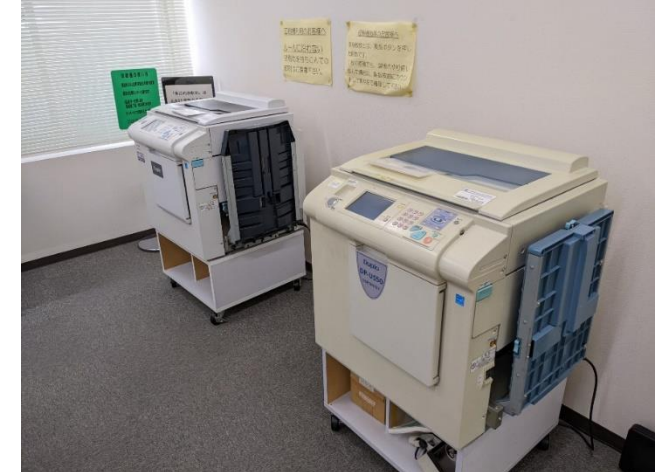


作業コーナー

紙折機

裁断機

多目的活動室



～過去のふりかえり～ 市民協働推進の取り組み⑦

- 1 市民へのアピール
- 2 市民協働のまちづくり推進指針
- 3 基本条例の制定に向けて
- 4 市民・協働ステーションのあり方について

④ (2) 市民協働の推進、市民活動の支援

①活動の場の提供（市民・協働ステーション）

②情報の提供

NPO・ボランティアガイドブック
協働ステーションWeb
市民・協働ステーションでの情報の提供
NPOボランティア講座



③活動に対する保険加入（市民活動総合補償保険制度）

④美化ボランティア支援（アダプトプログラム）

⑤新規事業立ち上げ時の支援（地域まちづくり補助金）

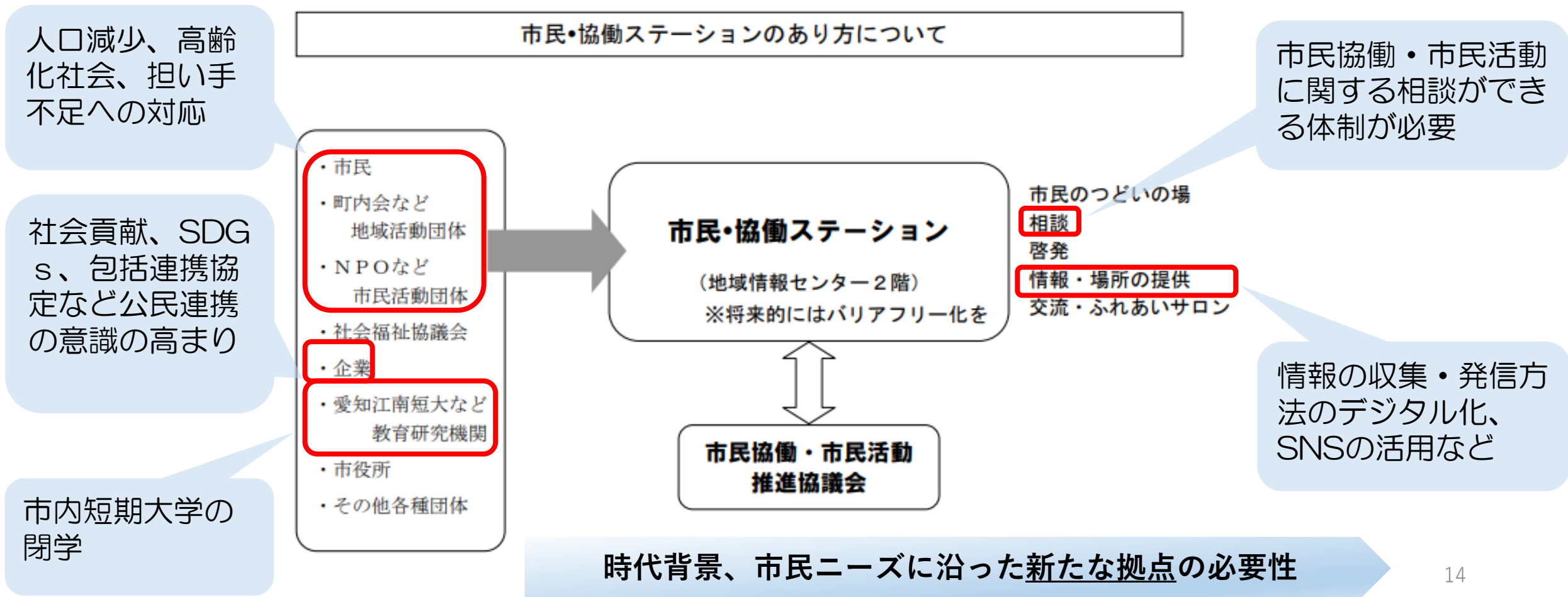
⑥推進に対する検討（市民協働・市民活動推進協議会）



～過去のふりかえり～ 市民協働推進の取り組み⑧

- 1 市民へのアピール
- 2 市民協働のまちづくり推進指針
- 3 基本条例の制定に向けて
- 4 市民・協働ステーションのあり方について

④ (3) 市民・協働ステーションのあり方について (H20.3 江南市市民協働研究会の提言書より)



『生涯活躍のまち』の取組に向けて ～考え方の整理～

複合公共施設で展開する事業コンセプトの考案過程で『生涯活躍のまち』を知る

- ① 駅前に複合公共施設を整備し、これまで施設の一角で運用していた「市民・協働ステーション」の機能を移転することになったため、移転を機に、**単に施設の稼働のみをするのではなく、地域の担い手不足や地域資源の減少に歯止めをかける施策（ソフト事業）を展開することに軸足を置きたい。**
- ② ①で講じることとしたソフト事業は、厳しい財政状況の中で新たな負担を伴うが、実施初期にデジ田交付金（推進タイプ）を活用し、継続実施する中で効率的な事業実施のノウハウを得て、将来的には市単独事業等として自走したい。
 ※ 地域交流センター運営事業の担当課は「地方創生推進課」であり、日頃「生涯活躍のまち」や「デジ田交付金」の情報に接していたことが強み
- ③ **複合公共施設等に関連する交付金活用事業をリサーチ**していく中で、「生涯活躍のまち」の考え方に自発的に接し、事業コンセプトを整理。
 ➡ 事業コンセプトは施設内各機能との定例会時などに共有

江南市地域交流センター運営事業について①

構造的課題

- ・ 人口及び地域資源の減少
- ・ 地域コミュニティの担い手不足、繋がりの希薄化

市民をはじめ、企業や教育機関など多様な主体が関わる場へ

めざす将来像

- ・ 多くの世代、主体がまちづくりに関わっている
- ・ 生涯にわたり安心して住み続け、活躍できるまちへ

複合公共施設の利点を活かし、こどもからシニアまで集える場へ

事業内容

- ・ 地域コミュニティ（市民活動、自治会等）の支援
- ・ 多世代、多様な主体の交流の場及び機会の創出

新たな拠点における、協働のまちづくりの推進

【運営形態】 業務委託
R5.4.1～R8.3.31 3年契約
業務委託料 9,060万7千円

【事業費（令和5年度予算）】
3,350万円

（歳出内訳）
業務委託料 3,037万1千円
※ 活動等相談、事業の企画運営に係るもの
施設運営経費 312万9千円

（財源）
デジタル田園都市国家構想推進
交付金（地方創生推進タイプ）
1,518万5千円
使用料等収入 153万3千円

江南市地域交流センター運営事業について②

江南市地域交流センター発「全世代・全員活躍のまち」推進事業

つなぐ 【交流・居場所】

- ・市民活動団体、企業、教育機関を繋ぐ交流機会の創出
- ・図書館、子育て施設、保健センター等各機能を繋ぐ政策間連携

いきいき 【健康】

- ・交流センターでのイベント実施、保健センター等との連携

はつらつ 【活躍・しごと】

- ・コミュニティ人材の育成による担い手創出
- ・広域、多主体の交流による機会創出

名古屋駅まで約20分 名鉄布袋駅前

「布袋駅複合公共施設」内

『江南市地域交流センター』を拠点とした
交流機会の創出や人材の育成などによる
生涯活躍のまちづくり

くらす 【住まい】

- ・シティプロモーション、交流創出による移住・定住促進

かかわる 【人の流れ】

- ・従来の行政との協働で生まれなかった新たな主体、世代との交流による価値の創造
- ・地域内外の交流による新しい風の吹き込み

江南市地域交流センター運営事業について③

- ◎ これまでに培った「市民協働」の手法を基礎としながら、
複合公共施設内の機能としての利点を最大限発揮できる形態にシフトチェンジ

【従来の取り組みによる】市民協働

- NPO・ボランティア活動、市民活動に関心のある市民等
- 主に行政とNPO・ボランティア団体等による協働

団体メンバーの高齢化、
地域の担い手の減少、
行政単独の施策の限界

【江南市地域交流センター運営事業】複合公共施設の利点を活かした市民協働の新たな展開

- 「子育て」「健康」「学び」など複合公共施設の各機能間の連携や、駅前の立地条件を活かした賑わいの創出等により、これまで市民活動等に縁が少なかった層へアプローチ
- 行政、NPOボランティア団体等に加え、企業や教育機関など様々な主体による協働

江南市地域交流センターの取り組み①

(1) ひと・コトこうなんマルシェ

NEW!

各種活動の持続・活性化を図るため、市民活動団体同士の新たなネットワークが生まれるように情報交換や交流を図る場を提供するとともに、活動団体等の活動内容紹介ブースを設置するマルシェを開催。



(2) 江南まちづくりLabo57

NEW!

高校生・大学生を対象に、江南市の魅力などについて、気軽に話し合いながら、自身の企画力やプレゼンテーション能力を磨くことができるワークショップ。年度末に開催される地域まちづくりフォーラムで成果発表会を実施。

令和6年度 多彩な活動の場

江南まちづくりLabo57

参加無料

市の魅力について
みんなで話し合いながら、
対話力、企画力、
プレゼンテーション能力を
磨きませんか?

「江南まちづくりLabo57」は、
江南市が持つ魅力を最大限に
引き出し、市民の力でまちを
盛り上げるためのワークショップです。
参加費は無料です。お気軽に参加してください。

メンバー募集!

期次	開催日時	対象	定員
第1期	10月18日	高校生・大学生の方	20名
第2期	11月15日	江南市地域交流センター 会議室 2-3	
第3期	12月20日	10月11日(金) ※お申し込み締め切り	
第4期	1月17日	江南市地域交流センター 会議室 2-3	
最終期	3月8日	江南市地域交流センター 会議室 2-3	

申込方法: 江南市地域交流センター 申込フォームより
お申し込みください。お申し込み後、参加費の案内をメールでお知らせいたします。

お問い合わせ: 江南市地域交流センター 企画課
TEL: 0587-58-5771

特設: まちづくりLabo 参加費は10月~1月の期間4回
江南市地域交流センター 会議室 2-3にて無料で行われます。

江南市地域交流センター
江南市北山町1-1-1 江南市地域交流センター
TEL: 0587-58-5771

自分たちのまちのミライを
考えています!



江南市地域交流センターの取り組み②

(3) 彩色まちづくりゼミナール

VersionUP!

各団体の人財育成につながる講座の開催。

【R6年度】

①人と人のつながりを考えるセミナー (R6.5.5)

②区長・町総代向けセミナー (R6.7.9)

③市民活動団体向けセミナー (R6.11.16予定)

自治会・町内会のための運営お役立ちセミナー

令和6年度 第3回

講師: 水津 陽子氏

2024年 7月9日(火) 18:30~20:00 (受付18:10~)

会場: 江南市地域交流センター 会議室1・2・3

対象: 区長・区民の方(町内会・町民会の方) (定員50名)

申込方法: 電話・窓口・申込フォーム

彩色まちづくりゼミナール

令和6年度 第3回

講師: 南田 あゆみ氏

2024年 11月16日(土) 10時~11時30分 (開講9時45分)

会場: 江南市地域交流センター 会議室1・2・3

対象: 市民活動・ボランティアに興味のある方

申込方法: 電話・窓口・申込フォーム

(4) まちづくり補助事業募集

VersionUP!

地域で活動する団体などが工夫を凝らして取り組む、地域がつながり地域を良くしていこうとする事業に対する市まちづくり補助事業の制度説明会や申請書提出のための相談会の開催。事業完了後に開催される地域まちづくりフォーラムで成果報告会の実施。

地域まちづくり補助事業募集

令和7年度分

10月1日(火)~11月30日(土)

10万円(上限) 20万円(上限)

申込期間: 10月5日(土)19:30~20:30 / 10月10日(火)11:30~12:30

申込場所: 江南市地域交流センター

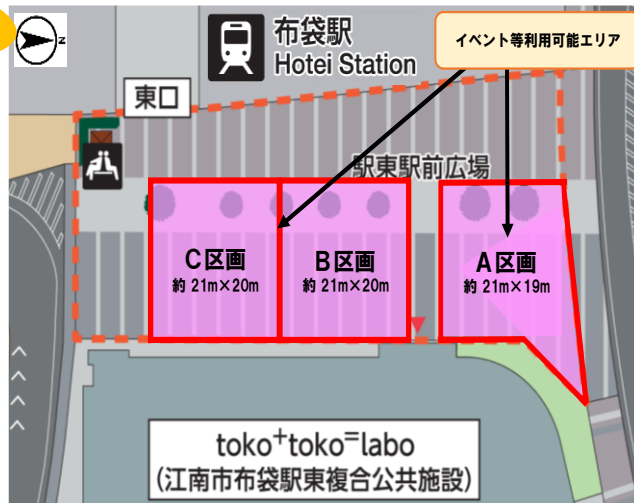


江南市地域交流センターの取り組み③

(5) 布袋駅東駅前広場

NEW!

駅前の賑わいや地域活性化、様々な団体や世代が参加して交流できるイベント（キッチンカー等の飲食・物販、展示会、ワークショップ、フリーマーケット）で利用することができるよう歩行者利便増進道路制度（通称「ほこみち」制度）を県内で初めて活用。



(6) コミュニティカフェ

challenge!

市民活動団体や町内会、子供会、子育て世代の親などの多様な団体や仲間がテーマを持ちより話し合う場を提供して、地域の課題や問題、要望をセンターが見つけ、新たな事業化や仕組化を図る。令和6年度から子育てなどをテーマに試験的に開始。



高校生、大学生、子育て世代など、若い世代の居場所に!

市民活動団体同士の新たな関わりもでき始めています。

江南市地域交流センターの取り組み④

(7) スマホ・パソコン初心者相談会

主に高齢の世代を対象としたパソコン、スマートフォンに関する初歩からの相談会を開催し、デジタル技術を積極的に市民活動に用いる人財の育成や、これまでデジタル技術に触れる機会が少なかった層に対する不安解消に努める。



シニア層のボランティアが活躍し、
デジタルディバイドを解消！

学生の発表は、「良かった」という
声も多くいただきました。

(8) 江南市まちづくりフォーラム

まちづくり事業に係る基調講演や江南市地域まちづくり補助事業の採択団体、江南まちづくりLabo57による事業報告会を通じて成果と課題を共有し、参加者同士の交流を図りながら、市民活動やボランティア活動の発展を促す場とするとともに、新たに参加する市民等を増やすきっかけづくりとなる事業を企画し、運営を行う。



事業の実施状況 … KPI (令和5年度)

KPI① 江南市地域交流センターの利用者数

- ・ 目標値 7,500人
- ・ 実績値 18,478人 (達成率 246%)
- ・ 月別の平均利用者数 1,540人

この状況を持続的なものとしていくことが課題の本質。

KPI② 当該事業により実施したイベント等行事の参加者数

- ・ 目標値 336人
- ・ 実績値 1,056人 (達成率 314%)
- ・ 月別の平均参加者数 88人

KPI③ 地域コミュニティの団体数

- ・ 目標値 毎年5団体の増加
- ・ 実績値 3団体の増加 (達成率 60%)

施設内にある保健センター、図書館、子育て支援センターとの連携事業も実施

KPI設定時 (R3年度末時点) 4 6 4 団体

⇒ 実績値 4 6 7 団体 (目標値 (R5) 4 6 9 団体)

令和4年度から5年度にかけて、市民活動団体は29団体増加したものの、老人クラブなど他の主体の減少傾向が続く。

【都市再生整備計画 事後評価（原案・R6.10現在意見募集中）の内容から】

- ・ 布袋駅周辺の交流施設等の利用者数

171,486人（H30） ➡ 221,205人（R5実績） ※目標：204,000人（R6）

- ・ まちの賑わい満足度

18%（R1） ➡ 66%（R6アンケート） ※目標：24%（R6）

- ・ まちの安全性・利便性満足度

40%（R1） ➡ 68%（R6アンケート） ※目標：46%（R6）

▶ 魅力的で賑わいある江南市の南の拠点づくりが進んでいる

【事業開始後の意見】

- ・ 以前に比べ高校生や大学生が過ごす（滞在する）姿を見かけることが増えた。
- ・ 子育て世代にも利用しやすくなった。

デジ田交付金(推進タイプ)の活用にあたって ①

◎ 主な流れ

- 令和3年 地域交流センターの整備計画と併せて、デジ田交付金（推進タイプ）を活用したソフト事業の実施について検討開始
- ▶ 地域交流センターの事業実施を担う「地方創生推進課（現・企画課）」が、デジ田交付金の申請取りまとめ部局であったこともあり、かねてから当該交付金を活用した事業ができないか模索していた経緯も相まって交付金の活用に至った。
- 令和4年 引き続き、実施計画策定等の検討
「生涯活躍のまち」づくりに関する第1回意見交換会（R4.6.29）出席、ガイドラインの参照、RESASによる情報収集等
- 10月 交付金申請に係る相談会出席（愛知県）
- 11月 交付金申請に係る相談会出席（内閣府）
- 令和5年 1月 本申請
3月 採択
- 令和6年 2月 当該事業へ企業版ふるさと納税の寄附 1件
- … 事業継続中

実施計画の考案、相談を通じて
事業を客観視し、ブラッシュアップ

企業版ふるさと納税制度の活用も
並行して実施

デジ田交付金(推進タイプ)の活用にあたって ②

◎ 交付金の活用にあたり苦労した点

- 交付金申請にあたり、実施計画書の作成は一定のボリュームがあり、各項目間の整合性などに配慮しながら記載することが必要であったことに加え、市としては初めての活用事例であったため不慣れな面があり苦労した。

◎ 交付金の活用にあたり工夫した点

- 国及び都道府県が設ける相談の機会を活用し、意見等を受けることで、作成過程で客観的な振り返りができた。
- 「生涯活躍のまち」や「デジタル田園都市国家構想」などを基本に、多くの自治体で課題となっている事項及び当該課題に向けた取組の方向性を理解、把握したうえで、RESAS等の統計資料や、市町村の総合戦略などから、地域固有の課題や目標を確認し、事業の構築を図った。

◎ 良かったと感じたこと

- 本件がデジ田交付金の初活用であったが、この経験が後に、デジタル実装タイプなど他の交付金活用の礎になっている。
- 企業版ふるさと納税募集のため、地域再生計画の策定を行うなど、地方創生・地域活性化へのマインドが向上した。

◎ 課題

- 他課の事業についても、交付金を活用して新規・拡大事業にチャレンジすることを期待しているが、これまで実績はなく、事例を横展開して取組を促していくことが必要。

事業の将来展望

◎ 時流に応じた地域交流センターの役割の広がり

2024年5月に未来都市に選定

【従来の取り組みによる】市民協働

- NPO・ボランティア活動、市民活動に関心のある市民等
- 主に行政とNPO・ボランティア団体等による協働

【江南市地域交流センター運営事業】 複合公共施設の利点を活かした市民協働の新たな展開

- 「子育て」「健康」「学び」など複合公共施設の各機能間の連携や、駅前の立地条件を活かした賑わいの創出等により、これまで市民活動等に縁が少なかった層へアプローチ
- 行政、NPOボランティア団体等に加え、企業や教育機関など様々な主体による協働

【江南市SDGs未来都市計画推進事業】 「官民共創プラットフォーム」の構築、運用（R6～）

- 「SDGs」をキーワードに官民が連携し、それぞれの主体の強みを活かしながら、地域課題の解決に取り組むための仕組み（プラットフォーム）を構築する。パートナーの掘り起こしや、地域課題と各主体が有する強みとのマッチングをする役割を地域交流センターが担っていく予定。



ご清聴ありがとうございました